

「がん進展制御研究所セミナー」を開催

2025年1月23日

1月23日（木）、金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室において、11月に本研究所に着任されました ゲノム生物学研究分野 磯崎英子先生による、がん進展制御研究所セミナーを開催しました。

セミナーでは、磯崎先生がメインテーマとされている肺がんの分子標的治療薬に対する薬剤耐性獲得の分子機構に関して、研究の開始から現在に至るまでの最先端の取り組みを詳しく丁寧に紹介していただきました。また、遺伝子変異を誘発するAPOBEC3Aの機能解析は、がんの進化と多様化をつかさどる根源的メカニズムの解明に寄与すると期待され、今後の展開が大変注目されます。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等 34 名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



内因性免疫機構を利用したがんの進化 ～生き残るがん細胞たち～

Cancer evolution driven by innate immunity
– Persistent cancer cells –

ヒトの体を構成する細胞のDNAは、様々な外的・内的要因により損傷を受けます。多くの損傷は修復されますが、誤った修復が起こることもあり、これが遺伝子異常となります。加齢に伴って、このような遺伝子異常が蓄積されることで、細胞は進化し、やがてがん化します。治療中に生き残るがん細胞においても同様に遺伝子異常の蓄積がみられ、がん細胞が進化することで薬剤への耐性化を引き起こすと考えられてきました。しかし、どのようにがん細胞が進化するのか、その詳細なメカニズムは未だ不明です。がんの進化機構を明らかにすることで、がんの進展や薬剤耐性を未然に防ぐことが可能となります。一塩基多型を起こすCytidine deaminaseであるAPOBECという酵素は、強力なmutatorであり、本来は外的因子であるウイルスの増殖を阻止する役割などを果たしています。最近、がん細胞内でもこのAPOBECが活動していることが明らかとなり、がんの遺伝子異常およびがんの進化を引き起こす要因として注目されています。

本セミナーでは、**APOBEC**を中心に、非小細胞肺癌における分子標的治療薬の耐性機構に関する研究の進捗と今後の展望について紹介します。



NEW Professor!

金沢大学がん進展制御研究所
ゲノム生物学研究分野 教授

磯崎 英子 先生

Prof. ISOZAKI Hideko
Division of Genome Biology
KU-CRI

開催日: 2025年1月23日(木)

Date: Jan 23, 2025 (Thu.)

時間: 17:00 - 18:00

Time: 5:00 - 6:00 p.m.

場所: 金沢大学がん進展制御研究所

Venue: 4F Conference Room, CRI

4階会議室

※ The seminar will be conducted in Japanese with presentation slides in English, and participants can engage in Q&A in either Japanese or English.